

健康と医療 **いきいきゼミナール**

健康と医療についてゲストに語っていただくコーナーです

テーマ **「受動喫煙の害」**

ゲスト **白石内科クリニック 干野 英明 院長**



発がん性物質が含まれます。一酸化炭素は、タバコが不完全燃焼した時に発生する物質で、血液中で酸素よりも先にヘモグロビンと結合し、酸欠状態を引き起こします。また、血液中のコレステロールを酸化させ、動脈硬化を進行させます。

約1万5千人が受動喫煙で死亡していると推計されています。タバコに含まれる有害物質や発がん物質は、喫煙者本人の健康を害するだけでなく、家族や友人、職場の同僚など身近な人の健康も脅かします。わが国の屋内での喫煙規制は遅れており、中途半端な分煙をしている店では、禁煙席であつても汚染が環境基準を大きく上回る場合が少なくありません。

世界では「たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約」に示されているように、受動喫煙の健康被害は明白なものとして、分煙ではなく全面禁煙化が進んでいます。

受動喫煙にさらされると、がんや脳卒中、虚血性心疾患、呼吸器疾患などのさまざまな病気のリスクが高くなり、妊婦や赤ちゃんにも悪影響を及ぼすことが分かっています。受動喫煙との関連が確実にされる「肺がん」「虚血性心疾患」「脳卒中」「乳幼児突然死症候群」の4疾患について、わが国では年間

ため主流煙よりも煙の中にずっと多くの有害物質が残るとされます。主流煙を1とした場合、副流煙にはニコチンが2.8倍、タールが3.4倍、一酸化炭素が4.7倍も多く含まれます。ニコチンは神経毒性を持ち、血管を収縮させて血圧を上げます。また、依存性もあります。タールは、タバコの成分が熱で分解されてできる粘着性の物質で、ベンゼンなど多くの

有害物質が含まれており、そのうち約70種類は発がん性の物質といわれています。問題になるのは喫煙者が吸い込む主流煙よりも、タバコから立ち上る副流煙の方です。主流煙は吸う時に800℃もの高温になるため、有害物質は燃焼されやすくなります。一方、副流煙は低温の

風邪、気管支炎、肺炎、喘息(ぜんそく)などの呼吸器疾患やアレルギー性鼻炎、花粉症といったアレルギー性疾患の治療を中心に、肺がんのセカンドオピニオン、禁煙外来(保険診療)まで、きめ細やかな診療を心がけています。2013年7月1日に移転しました。

▲外観

病院訪問 **白石内科クリニック**



住所/札幌市白石区中央1条7丁目10-30
白石中央メディカルビル 1階
電話番号/011-868-2711
診察受付/月・木曜 9:00~12:30 14:00~19:00、
火・金曜 9:00~12:30 14:00~18:00、
水・土曜 9:00~12:30
休診日/日曜・祝日 院長/干野 英明

企画制作/北海道新聞社営業局